

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1475300693
法人名	株式会社 保健科学研究所
事業所名	グループホーム 金沢けやき園
訪問調査日	平成 21年 2月 17日
評価確定日	平成 21年 3月 15日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1470800820
法人名	株式会社保健科学研究所
事業所名	グループホーム 金沢けやき園
所在地	神奈川県横浜市金沢区釜利谷東4-3-26 (電話) 045-791-7181

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年2月17日	評価確定日	平成21年3月15日

【情報提供票より】(21年2月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	29 人	常勤	13 人, 非常勤 16 人, 常勤換算

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	36,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月 4 日現在)

利用者人数	26 名	男性	4 名	女性	22 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 85.5 歳	最低	81 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	港南台病院、金沢文庫病院、鎌倉クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は、京浜急行線金沢文庫駅より徒歩13分の、四季の移り変わりを楽しめる緑の多い自然に囲まれた場所に立地している。 ・利用者が町内の夏まつりや会館での餅つきに参加するなど、地域とのふれあいの中で暮らしており、理念に記載されている、「利用者が地域の方と共に生き、楽しみと喜びの日々を過ごせるように手助けする」を日常的に実践している。 ・事業所は、医療連携体制加算の指定を受けており、協力医療機関の医師と訪問看護ステーションの看護師との間で、24時間対応の連携がとれている。 ・利用者は屋内に閉じこもることなく、毎日の散歩や、お花見、あじさい見学、お月見、庭でのバーベキューなどを楽しみながら、明るく元気な日々を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年4月に受審した前回の外部評価では、「今後も継続して、質の向上に取り組む」とのコメントはあったが、特に改善課題は無かった。 <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者は、外部評価の意義とねらいを職員に説明した後、自己評価表を全職員に配布し、職員は担当職務に関する項目を記入した。 ・記入した自己評価内容をカンファレンスで話し合い、各ユニットリーダーが素案を作成して、管理者が取りまとめた。
	<p>② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は、町内会長、民生委員、利用者・家族代表、ボランティア代表や地域ケアプラザのケアマネージャーが参加して、3か月ごとに開催している。 ・会議では管理者が、事業所の運営状況や行事内容を説明して意見交換し、参加者から運営上のコメントを得るなど、地域の理解と協力を得る貴重な場として活用している。
重点項目	<p>③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の利用者が多く、家族は気軽に面会に訪れ、職員が直接意見や苦情を聞く機会が多い。内容は毎月のユニット会議で検討して運営に反映している。 ・利用者の生活状況や行事内容のカラー写真を入れた「金沢けやき園通信」と、個人別の食事、排泄、入浴状況や体調を記載した「利用者便り」を毎月送付して、家族との連携を密にしている。
重点項目	<p>④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入しており、利用者が町内の夏祭りや餅つきに出向き、また、近隣の住民が事業所が配布している行事案内を見て、気楽に参加している。 ・地域の幼稚園児が、年2回事業所を訪れて利用者とは交歓しており、小学生とは、度々相互訪問している。 ・町内会長が、運営推進会議の委員のため、地域との繋がりは良好である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・理念の一つは、「利用者の人格を尊重し、その人らしさを失う事なく明るく元気で自立した生活を維持するためのサービスを提供する」で、二つ目は、「職員は利用者が地域の方と共に生き、楽しみと喜びの日々を過ごせるように手助けする」であり、何れも開設当初からの理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念を事務室と多目的ホールに掲示し、職員に浸透するように朝の申し送り時に唱和し、またミーティングの中で話し合っている。 ・管理者は、職員の入職時に理念を伝え、理解を深めるように話し合い、実践に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の一員として町内会に加入している。町内の夏まつりには、子どもみこしが事業所へ立ち寄り休憩したり、町内会館での餅つきに参加したり地域とのふれあいの中で暮らしている。 ・年2回、地域の幼稚園児が所内で歌と踊りを披露し、小学生が事業所を訪れて交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・管理者は、外部評価の意義とねらいを職員に説明した後、自己評価表を全職員に配布し、職員は担当職務に関する項目を記入した。 ・記入した自己評価内容をカンファレンスで話し合い、各ユニットリーダーが素案を作成して、管理者が取りまとめた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は、町内会長、民生委員、利用者・家族代表、ボランティア代表や地域ケアプラザのケアマネが参加して、3か月ごとに開催している。 ・会議では管理者が、事業所の運営状況を説明して意見交換し、参加者から運営上のコメントを得るなど、地域の理解と協力を得る貴重な場として活用している。		

金沢けやき園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・管理者は、金沢区役所主催の感染症の研修をはじめ、各種の研修に参加している。金沢区はいかい高齢者SOSネットワーク事業にも参加している。 ・横浜市主催の研修会に参加して、スキルアップを図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族には来訪時や、毎月の個人別の手紙で本人の健康状態や暮らしぶりを伝えている。 ・小口現金は預かり金で支払い、後日領収書を添付した請求明細を家族に送付して報告している。 ・毎月、利用者の生活状況や行事内容を記載した「金沢けやき園通信」を、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の面会が多く、また、年4回の家族会や、ひな祭りなどの行事の機会を利用して家族の意見を聞き運営に反映している。 ・家族からの苦情や意見は、各ユニット毎の会議で話し合っ解決し、結果を家族にフィードバックしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・利用者への不安の原因とならないよう、職員の異動は最小限に抑えている。法人内の異動は少ないが、ユニット内の異動に備え、利用者が他のユニットの職員とも面識が持てるよう、外出やイベントの機会を積極的に活用している。 ・会議の申し送りや合同昼食会は3ユニット合同で行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人の介護事業部が、研修計画を作成して人材の育成に努めている。 ・内部研修は、日常的に毎日の介護の中で利用者に対応しながら教育するOJTが主体である。 ・外部研修の受講を積極的に勧め、研修結果をミーティングで発表し、また報告書を回覧して職員間で共有している。	○	職員の能力や経験に応じ、外部研修を含む年間の研修計画を作成して、計画的に職員の育成に取組まれることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域包括支援センター主催のケアマネージャーの会に参加し、お互いのサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。 ・加入している横浜市のグループホーム連絡会では、職員の交換実習があり、また、同業者間での交流や連携を行ってサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・管理者やリーダーが、利用者の自宅や入所している施設に向向いて、本人・家族と面談し状況を説明している。 ・入所前に事業所の見学を勧め、入所後のサービス内容を把握してもらっている。要望があれば、10日程度の体験入所もでき、徐々に馴染み日々の暮らしに移行するように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員と利用者はお互いに思いやりを持って一緒に支え合って暮らしている。 ・職員は、春菊のごま和えや、高野豆腐の作り方、ふきのとうの味噌合えなど料理の仕方を教えて貰っている。 ・庭の畑で、一緒に野菜や花づくりを楽しみむことも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・職員は、お茶を飲みながら利用者の思いや希望を聞き、日常の行動や会話の中から、日常生活についての意向の把握に努めている。 ・利用者からの買物や外食などの希望にも、可能な限り本人の意向に沿って支援するように心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画書は、アセスメントの結果を基に利用者や家族の思いや意向、かかりつけ医の意見を反映して、ユニット会議で話し合っ作成している。 ・作成した介護計画は、家族の来訪時に説明して了解を貰い、署名・押印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画書は、最初の作成時は3か月後に、その後は6か月ごとに見直している。 ・本人の体調が変化した場合や、本人・家族からの要望によっては、随時現状の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・月2回内科医の訪問診療があり、看護師との契約・医療機関との連携で、24時間医療処置を受ける体制ができています。 ・職員は規定より多く、利用者の気分転換や健康維持のため、ほぼ毎日3～4人の利用者とは外出している。 ・現場からの要請により、状況に応じて事務所職員も、可能な範囲で柔軟に対応している。 		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者及び家族の希望を大切に一番適切な医療を、継続して受診できるように支援している。 ・かかりつけ医がない場合は、事業所の協力医療機関の内科医による訪問診療と看護師による健康管理と相談ができる医療体制をとっている。 		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・重度化した場合や、ターミナルケアについては、医師による往診は困難であり、入所時事業所で可能な範囲を家族に説明して了解を得ている。 ・家族、医師、職員が話し合い、利用者専門医のいる病院への入院をお願いし、終末期を過ごせるよう職員間で方針を共有している。 		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関のロビーには「個人情報保護規程」と共に、平成21年1月、日本情報処理開発協会から取得した「Pマーク」の認定証を掲示して、プライバシーの確保に努めている。 ・利用者の尊厳を第一とした支援に徹しており、不適切な言動には十分に留意している。 ・個人用の資料は、所定の書棚に施錠して保管している。 		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の運営方針に“利用者一人ひとりのニーズに応じた自立した生活の維持”を掲げ、利用者のペースを大切に支援している。 ・利用者は、近隣への散歩や買物、室内でのレクリエーションを楽しむなど、家庭的な日常生活を送っている。 		

金沢けやき園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食材は業者に依頼しているが、職員は、利用者にとって食事が大きな楽しみであることに配慮しており、利用者の好みに応じて、調理法や食材の一部を替えて対応している。 ・利用者は、職員と一緒に食事をしており、個人別の食器の出し入れを始め、準備からあとかたづけを分担している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴は基本的には週3回であるが、状況によっては2回の人もある。 ・入浴が好きでない方には、お話したり歌を唄ったりしながら、お風呂に誘っている。しかし、そのときの体調や気分によっては、足浴で終わることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・それぞれのユニットを一軒の家庭として捉え、利用者の生活歴や能力に応じて、食事の準備からあとかたづけ、廊下のモップ掛け、畑での野菜作りを手伝ってもらっている。 ・利用者が好む散歩や買物、居間での「アカペラ」や、ボランティアとの絵手紙、習字などが、日常の気晴らしになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・天気の良い日は、毎日午前中30～60分、利用者の希望に応じて近隣を散歩しており、月に1度は車でスーパーマーケットに買物に行き、また外食に出かけている。 ・年間計画に基づき、季節に応じて花見やみかん狩りなどの遠出を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関ドアを開けたとき、オルゴールのメロディが流れ、隣接した事務所の職員が気づくように工夫しており、日中は施錠していない。また、居室には鍵をつけていない。 ・万一の徘徊者に備え、交番や近隣の商店に協力を要請している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回、消防署の指導と地域住民の協力を得て、1階と2階の入居者が、それぞれの避難経路に沿って訓練を行っている。 ・災害防止マニュアルがあり、連絡体制も明確にしている。 ・事務所には、消防署への直通電話の他、建屋内の火災発生場所が特定できる受信設備を設置している。		

金沢けやき園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日業者から、献立表と一緒にカロリー計算された食材が届けられ、職員が毎食ユニット単位で調理し、利用者の摂食量に配慮して盛り付けている。 ・利用者ごとの摂食量、水分の摂取量を記録している。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居間には、食卓兼用の多目的テーブルがある洋室に続いて、10畳の和室があり、利用者は状況に応じてどちらでも自由に使って寛いでいる。 ・また、利用者はいつでもベランダにでて気分転換ができ、庭にあるガーデンテーブルで季節感を味わったり、昼食や、おやつを楽しむこともある。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・クローゼット付きの居室には、エアコン以外のカーテンを始め家具類は全て、利用者が使い慣れた物品を持ち込んでおり、本人がそれぞれ居室を家庭の延長として居心地良く過ごせるように工夫している。 		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 金沢けやき園
(ユニット名)	(さくら、かえで、つばき)
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市金沢区釜利谷東4-3-26
記入者名 (管理者)	小屋野 京子
記入日	平成 20 年 2 月 4 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	1と2に渡って理念をつくっており、職員はそれを熟知しており、時々は申し送りの中で唱和している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	基本理念は全職員が承知しており、理念の実践に取り組む仕事をしている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	孤立することなく、地域の一員として普通の生活を送っていることを家族や地域の人々に理解していただけるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	町内会主催の夏まつり、おもちつきには声をかけていただき、参加している。又、当園の夏まつり、バザーにはご近所の方も参加して下さっている。季節の花を届けて下さったり、野菜の苗を、今はこれが植え時、と持ってきて下さっている。自宅で出来た野菜やみかんなども届けて下さる。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	夏まつり時は園庭におみこしが来てくれ、お練りをして見せて下さる。おもちつきは町内会館の中にてきなこ餅やあんこ餅などをいただいている。地域の2つの幼稚園の園児さんが12月と6月に訪問くださり、歌や踊りなどを披露してくれている。又、近くの小学校の生徒さんたちも遊び訪問してくれ、こちらからも小学校へ遊びに出かけている。	

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ボランティアさんによる音楽イベントなどの訪問があり、その時には地域の高齢者等に声かけを行っている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>気づきや反省に活かし、よりよい介護を目指す為に、自己評価、外部評価を活かしてゆきたいと取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には、地域の代表者の方々、入居者の家族代表の方々、地域ケアプラザの方へ出席いただき、サービスに活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の実践者研修生の受け入れを行っており、市の企画の研修会にも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>1年間の研修の計画を立てており、必要に応じて研修を受けている。成年後見制度を受けている入居者様も数名おられる。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会に参加し、勉強をしている。目に見える虐待だけでなく言葉の虐待もあることを管理者、職員とも理解できており、注意を払い防止に努めている。</p>		

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一年間の研修の計画を立てており、必要に応じ、市や個別の研修を受ける機会も確保している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>ネットワークづくりの会にも参加しており、勉強の機会がある時は参加し、サービスの質の向上をはかっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の歓迎会、懇親会、慰労会や忘年会などを行い、職員同士のコミュニケーションの場を作り、ストレス軽減に努めている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>資格に応じ手当をつけ、資格の学校に通う職員には、勤務日の配慮などを行っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人とは、ホーム長、リーダーともよく話を伺い、不安をお聴きしどのようなことを望んでいただけるのかもよく聴き、説明を行い理解していくよう努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族のご相談、困っていただけること、不安なこと、求めていることをよく伺い、受け止める努力をしている。応接コーナーか会議室に来ていただきご相談を受けている。</p>	

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まず必要とされている支援は何なのか、よく見極め、傾聴し、対応を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の安心安堵を見極め、馴染んでいただくまで、家族と密に連携を取り合い、落ち着いていただけるよう工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の知識、昔の知恵などを教わったり、お料理を手伝ってもらったり教えてもらったりしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは通信、お手紙等により連絡、連携を取り合い、家族会などを通じ訪問していただく機会も作り、話し合いの機会を作っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族は、此処に来られるまでは、お互いに疲れがあったと思われるときもあり、家族にとっては介護疲れが癒される時間も出来て、本人との関係もゆったりされ、より良い関係になっていただけることにも支援をしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来られることや、外出・外泊は自由であることも周りの方々に伝え、手紙や電話の支援もしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は申し送りや会議により、入居者同士の関係、立場を熟知しているので、孤立や対立をしないよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも立ち寄って下さいと話しており、電話をいただいたり、年賀状など季節のご挨拶のハガキ等を出している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お好きなことがある方にはなるべくそれを活かしたケアを心がけている。意向、把握に努めており、本人本位になるように出来るものはしていただいている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴をお聴きしており、ご家族からは経過等も伺っており把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員はきめ細かく目配り気配りにて心身の変化に気づいて対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月一回のユニット会議にて話し合い、介護計画に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に変化があった場合は、必要に応じ計画の見直しを行っている。		

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護日誌、介護記録を一人ひとり個別に記入している。状態などに変化があれば会議にて話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	変化に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員、ボランティアさんの協力や警察の巡回、年2回の消防訓練、幼稚園、小学校との交流などを行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	マッサージの往診や介護タクシーの利用などを支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアプラザケアマネさんとはお互いの会議に出席し合ったり関係を深めている。権利擁護や色々な議題の会議を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の内科往診や歯科往診、整形外科医の往診などを受けている。家族が入居する以前のかかりつけ医を希望される場合はその関係を大切に、入居者に一番合っている医療が受けられるよう支援している。		

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師の往診には至っていないが、受診に行き相談治療を受けている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	近くの24時間対応の訪問看護ステーションと連携を取っており、健康管理や医療の相談やアドバイスを受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはなるべく多く訪問し、安心していただくと共に、担当医師に面談を求め情報を得ている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	出来る限り入居を続けていただいている。対応できなくなる場合については、入居時に説明を行っている。医療行為は出来ないため、医療が必要になった時は、専門科にて入院治療を受けている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療の必要があるまでは出来るだけ普通に日々を過ごしていただいている。重度や終末期に入院加療が必要となった時は、もっとも適した医療機関への入院治療を受けている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人に関わる関係者は十分に情報交換を行っており、ダメージの小さいように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の方は大切なお客様と考えており、認知症があるからと不用意な言葉を掛けたり、誇りやプライバシーを傷つけるような対応は行っていない。個人情報の取り扱いも正しく行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	耳を傾け希望や要望を聴くようにしており、入居者に説明し納得して暮らせるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買物、レク等いろいろ毎日の行事があるが、本人の希望を第一にし無理や強制は行っていない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやその人らしいおしゃれが出来るよう、アドバイスや支援をしている。理美容は訪問を受けている。外の理美容を希望されるときは、職員や家族が対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや盛り付けにも工夫をしている。暖かいものは暖かいうちに、冷たいものは冷たいうちに召し上がっていただけるよう目の前の台所で調理をしている。利用者と職員と一緒に作ったり後片付けをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこの方は火の始末に気をつけ、決められた場所にて楽しんでいただくようにしている。飲み物おやつも、時には手作りのものを出している。お誕生日会や外食や行事の時は、ビールやシャンパン等楽しんでもらっている。	

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便チェックをつけており、パターンを把握し一人ひとりに合わせた支援をしている。排便のチェックも申し送り、排便の状況の把握を通じ、便秘にならないように対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりのペースで無理なくゆったりと入ってもらえるようにしている。入浴時は皮膚や体のチェックもあわせて行い、変化にも気をつけている。コミュニケーションをとり、一緒に歌を歌ったりしながら楽しく入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、その日の体調に応じて声かけ、見守りをしている。夜よく眠れるよう日中はラジオ体操、散歩などにて活性化はかり支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの出来る事に応じ、調理、ちぎり絵、編み物、習字、絵手紙、合唱、菜園の世話など好まれる楽しみごとの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方がほとんどであるが、本人の力量に応じお金の所持や使用を支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お天気の良い日は、毎日の散歩は欠かさず行っているが、一人ひとりのその日の希望にそっては難しい。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事として季節の花々のお花見や、みかん狩りに行ったり、外出に出かけたりしている。		

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話をかけたり、取次ぎをしている。手紙のやり取りや、絵手紙の作品を家族宛に出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の訪問は多く、個室やリビング等過ごしやすい場所で会っていただいている。お茶の接待や食事などの提供もしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は何も行っていない。職員は身体拘束はしないという事を理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通常は玄関には日中鍵をかけないようにしている。徘徊のある方が強く不穏になられている時は、やむ得なく本人に分らないように鍵をしている。	○	なるべく鍵はかけないようなケアに取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在を確認をし、夜勤帯は時間を決め巡視に訪室し、安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を把握し、危険なものでないがその方には危険であるものは、職員が預かり必要ときに渡している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各ユニットカンファレンスを通じ、一人ひとりのケアについて学びあっている。転倒、窒息、誤薬、徘徊などになる前のヒヤリハット等を出し合い、事故にならないよう取り組んでいる。		

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急時の対応マニュアルも全職員が保持しており、必要な場所に啓示している。年2回の救命救急訓練も消防訓練と共にやっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防署の避難訓練も受けており、運営推進会議にて地域の人々の協力も得ており、避難場所の確保も出来ている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の訪問も日頃から多く、職員とのコミュニケーションも取れており、家族にはリスクの説明も出来ているが、今を大切にされた暮らしをしていただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日血圧、体温、脈の記録をし、伝達を行い、情報を職員全員が共有している。日中よく対応を行って、顔色や体調の変化にも気づくことが出来ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の処方情報にて勉強し、持病についても把握している。服薬にあたっては、間違いのないよう名前、日付、朝昼夕の確認をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段より乳製品(牛乳、ヨーグルト)を摂るようにしており、寒天のおやつも多用している。食事にも野菜を多く摂れるよう配慮している。ラジオ体操やレクリエーション、散歩などを毎日行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、誘導や声かけにて歯磨きを行っている。うまく自分で出来ない入居者には、職員が磨きなおしをしている。義歯の方は夜間ポリドントにて消毒、洗浄をしている。週一回の歯科往診時には義歯の手入れや口腔ケア、相談などを行っている。		

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニュー食材が届き、バランスのよい食事を摂取できている。主食、副食、水分量を毎回記録に残し、一人ひとりの状態を把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修には職員は順次参加し、感染症のマニュアルもあり勉強している。インフルエンザの予防接種も行い、常日頃は手洗い、うがいを欠かさず行っている。次亜塩素酸のうすめ液での消毒も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の調理用具等は毎晩洗浄消毒を行っている。食材が届くとすぐに賞味期限の確認や痛んだ古いものはないか確認している。大きな冷凍冷蔵庫もあり、食材は安全に口に入るまで管理できている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物のまわりには季節の花や果物、野菜を植えており、入居者と一緒に手入れなどを行っている。近隣の方々も今の季節はこれこれを植えなさい等アドバイスして下さり、野菜の苗や作った花を下さったりしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間、食堂には季節の花や飾り付けを行い、廊下には外出時の写真やちぎり絵、習字など入居者の作品などを飾り、話題作りになったり、生活感や季節感を感じてもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の部屋にはソファがあり、TVやくつろぎたい時には自由に利用でき、廊下の端やベランダにはベンチが置いてある。庭にはガーデンテーブルとチェアもあり、外でもくつろげるようになっている。		

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室には自由に好みのものを置くことができ、使い慣れた家具や好みの飾り付けをした居心地のよい部屋となっている。	○	レベル低下に合わせて、危険(事故)のないよう、家族と相談しながら、多少の模様替えも必要となってくる。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓の開閉は一日一回必ず行い、換気をはかっている。温度調整はこまめにエアコンにて行っており、乾燥しやすい季節は加湿器を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーであり、廊下も広く、車椅子やシルバーカーでも安全に移動が可能である。廊下、トイレ、浴室にも手すりを設置しており一人ひとりの身体機能を活かし自立した生活が出来るよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗面具セットにも名前をつけ個人個人のトレイとし、個人の靴箱には名前をつけ、自分で脱ぎ履きが行えるよう、居室には一人ひとり異なった手作りの表札をつけ、部屋の間違いをしないよう工夫を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園庭には花壇や菜園を作り入居者、職員で育てている。ベランダでもプランターや植木鉢で花を育て、ベンチにてゆっくり休んでいる。庭にはガーデンテーブル、椅子もあり、気候のいい季節には庭でお茶会や昼食会を楽しんでおり、夏まつりやバーベキューパーティー等を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

金沢けやき園(さくら・かえで・つばき)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・家庭的環境の中でその人らしく生活を送っていただいている。少しでも認知症の低下をゆるやかにしたいと、日々楽しい日常であるよう努めている。
 ・季節の行事として、節分、ひなまつり、お花見(さくら、つばき、しょうぶ、あじさい、紅葉等)、夏まつり、バーベキューパーティー、クリスマス会などを行い季節を感じてもらっている。